

## 第3章

### アメリカでの癌の治療法について

最初 1934 年に使われて成功したガンの治療法の隠蔽は、いくつかの特殊な、要素の組み合わせで起きた。

これらの、要素は次のものであった：

米国医師会の中にある、非学問的で非現実的な個人的な原則へのこだわり、そして科学的なライバル意識、組織のプライドと傲慢、スローン-ケッタリング記念財団の責任者の権力欲、異なる見解を押しつぶしてでも、自身のガンの治療法が知られるようにする。そして既得権をもつ製薬会社が、アメリカのガン治療法の方角性を決定するためと、医学管理のため政治的なメディアの支配権をゆっくりと獲得していったことにあった。

1934 年以降、様々な情勢が、あった。

重要な立場の人が 1 人でも勇敢に行動したならば、20 世紀の治療法的全歴史は、変わる可能性があった。

しかし、何も起こらなかった。

生命のコストと資産の損失は、数え切れない金額であった。

1934 年のガン治療法を隠蔽し、鎮圧し、そして、評価することを先延ばししたことは、我々の歴史上で、何にもものにもまさるアメリカの大災害であった。これは誇張ではない。

たとえ 1934 年の療法が 1980 年代後期に実現されたとしても、すでに起きた不毛な恐怖の歴史を偽ることはできない。

米国医師会は、1846 年につくられたが、1901 年までは、アメリカ国内で行われる治療法の大枠を決定する権力を持つほど、再編出来なかった。

しかし医者に、国立医学協会の会員になることを強制し、その国立医学協会に入るためには自分の住んでいる州の医学会に属さねばならないようにした。

こうして、大多数の医者はすぐに、AMA 米国医師会に加入し、その会員数を増やしていった。

同時に、医学部は公認の基準に基づくものにし、医師の標準業務を確定した。従うことを拒否した人々は、医師免許を失った。

1912 年に、AMA 米国医師会はその「医師協同組合」広報部を造った。

AMA 米国医師会のシカゴ本部は誰が国家医学専門誌に広告できるか決定するだけでなく、製品が米国医師会に「承認される」ために、広告主が広告料を支払うように求めた。

「モリス・フィッシュバインは、1920 年代中頃から、1949 年 6 月 6 日にアトランティックシティの米国医師会協定によって追い出されるまで、AMA の事実上の独裁者であった。

何箇所かの州の医者代表団の反乱のため、彼が権力の位置から引退した後でさえ、彼の設定した方針は、長年継続していた。

彼は、1970年代初期に死んだ。

1922年という早い時期にイリノイ医学会は、起きていることに対して警告した。

しかし、少数の人しか注意を払わず、この傾向に反対することをあえてしなかった：

「AMA 米国医師会は、まるで個人の支配下にある組織で、アメリカ合衆国の全医業は、1人の男性の意のままだ。アメリカ医学専門ジャーナルは、全資金を支配している。

「1つの例として、AMAの広告の認可の「不正」がどんな具合だったか報告する。

「素晴らしい薬の話」と「医学ムツソリーニ」の2冊の本の著者モリス A ビール、によると、ロサンゼルスの C.ギルドナーは、Maelum と呼ばれている製品を配信するために、キングの研究所と契約した。キングの研究所は、その製品のために AMA による、認可を要請した。

1931年10月27日に、AMAの責任者フィッシュバインは、承認されたと書いた

1931年11月10日になって、ギルドナーは全国の AMA ジャーナルまたは 42 州にある医学専門誌に広告を出さないかとフィッシュバインに言われ、ギルドナーは、それを拒否した。

フィッシュバインは1週間後 1931年11月16日に、AMAの食品委員会を通して、AMAの承認を取り消した。ビールによると、この手順は、よくあることだった。

製品は、その健全性と効果について、テストされず、広告収益だけが考えられていた。

要するに、AMAは長年広告主を差配するほどの権力を濫用してきた。

更に悪いことに、製品が安全でなく、不健全であった広告主にも、製品認可のお墨付きを金で与えた。

実質的に同じことが、AMAの「認可された製品」と「認可されなかった」製品のリストにも見られる。唯一の相違点はこれらのメーカーが、AMAのジャーナルの広告を掲載したかどうかだけが唯一の相違点であった。

この状況を作り出した責任あるこの男を AP 通信科学ライター・ハワード・ブレイクスリーは、「モリス・フィッシュバインはアメリカの医学の中枢である」といった。

フィッシュバインは、AMAのシカゴ本部で働いていた。

ガン・クリニックは 1934 年には成功していたが、数年後に、クリニックに参加しなかった R. T.ハーマー博士は、南カリフォルニアで治療にライフ装置を使い始めた。

ベンジャミン・カレンによると、R. T.ハーマー博士はアイデアから実現までガン治療法の全ての発展を観察してきた。

フィッシュバインはハーマー博士本人を見つけ出して、「買収しよう」とした

彼から拒絶されると、フィッシュバインは、ハーマー博士のライフのガン治療装置を破壊するために、AMAから人を派遣した。

カレンが思い出したことによれば：「ハーマー博士は1日平均40人治療した

彼は、2人のオペレーターを雇わなければならなかった。  
彼はオペレーターを訓練し、非常に綿密に見守った。  
治療のケースヒストリーは、急速に増えていった。  
それらの中に、シカゴから来た老人が、いた。  
彼には、彼の首と顔のあたり一面に悪性腫瘍があった。  
むごたらしいかたまりであった。  
ものすごくおそろしい状態であった。赤くただれた塊であった。  
彼の顔の至る所を切除した。目の底からまぶたまで切除し、耳の下部から耳たぶの底まで切除し、頬の部分と、鼻とあごまで進んだ。  
彼は、それをずっと見ていた。  
しかし、そのようなものすべてが6ヵ月で、彼の顔の端に少し暗い影だけが残るだけになって、その状態は消えた。  
その人は82才であった、  
私は、今までそのような治療経過を決して見たことはなかった。  
再び美しい赤ちゃんの皮膚のような清らかな皮膜があることの楽しみが戻っていた。  
「彼はシカゴに帰ろうとした。  
フィッシュバインは普通では、今まで通り生きる可能性はなかったので治療について聞こうとした。  
フィッシュバインは、老人を呼び老人は彼と話したが、寡黙に話を聞いていた。  
フィッシュバインは彼を気前よくもてなし、最終的には、フィッシュバインはサンディエゴ・クリニックでのハーマー博士による癌の治療を知った。  
「すぐに、ロサンゼルスから別の男がやってきて、我々とも何回か会うことになり専門的な話になった。  
ついに、その男は夕食を我々ととって、買収についての話を切り出した。  
我々はそれに応じなかった。  
名声は広がったが、大きな広告は出さなかった  
しかし、もちろん、それらは、ハーマー博士の治療歴になった。  
ハーマー博士は、この時代で最大の素晴らしい発展だと言った。  
彼の治療歴は、全く素晴らしいものであったが、「フィッシュバインは、会社の共同経営者を買収した。  
結果的に、我々は認可なしに稼働させたとして裁判所に断定された。  
1939年に、地元の医師会からのプレッシャーの下で私は、1年後に、一文無しになった。」  
R. T.ハーマー博士は、この治療法を捨てた。  
彼は、この話の中で、1人だけのヒーローではない。  
このように、1934年から1939年の、短い数年間に、ガンの治療法は、臨床的にデモンストラクションされ、他の医者によって他の病気の治療にも使用され、拡大していったが、

AMA(全米医学協会)のモリス・フィッシュバインの買収に応じなかったときに、終了した。

「彼の実践は結果的にこの技術を凍結させることとなった。そしてこの全米医学協会の決定で何百万人もの死ななくてもよいアメリカ人が、醜く死んでいった。これは人類史上前例のない貪欲な犯罪的行為であった。これは全米医学協会がおこなった最大の恥ずべき行為である。

何年もたったあと、AMA 全米医学協会に対して巨額の損害賠償の対象となる訴訟の引き金がひかれれば、アメリカの法律の施行の歴史のなかで未曾有の大事件になるかもしれない。連邦政府は、この時に（1938～1939）、どこで、なにをしていたのだろうか？

衛生研究所の組織は 1930 年にアメリカ国立衛生研究所に再編され、1938 年に、メリーランド、ワシントン D.C.郊外のベセズダへ移動したが、その時点では、アメリカ国立衛生研究所は、まだ小さな組織であった。

国立癌研究所は、1937 年に初めて作られた。

ガンの治療法の政府認可制度が開始されたところであった。

そして、1938 年に、フィッシュバインはワシントン D.C.でルーズベルトの最初の国民健康法案を停止させるためのロビー活動をしていた。

健康ビジネスの収益を国家から守ることと、ガン患者を「極寒の中で外に出す」ような治療法が永続的に行なえるよう、部外者からガードすること、といった他に、医療の独占支配がその目的であった。

黒幕にいる権力者には、プライベートな研究センターと製薬会社の 2 つのグループがあった。

ポール・スタンは、彼の 1984 年のピューリツァー賞をもらった本（「治療法の社会的変化」）で状況を説明した：

「1900～1940 年の、医学研究の主要資金は、プライベートなものから支給されていた。

個人的な基金と大学は、主要スポンサーで、基礎研究の主人であった。

最も豊かに資金が提供されている研究センターはロックフェラー医学研究所で、1902 年に設立され、1928 年までに養老基金として 6500 万ドル、ジョン・D・ロックフェラーから受け取っていた。

他の大きな「プライベートなスポンサーは製薬会社であった。そして、それは 1920 年代後半から、急速に拡大した。

個人基金と、大学と研究所が併せて 2500 万ドル支出したのと比較して、1945 年の製薬会社の研究支出の予想は 4000 万ドルであった」

1930～1950 年の未開発の癌研究の分野でもう一つの「権威」ある重要な団体は、アメリカの最初のガン専門病院として 1884 年に設立されたニューヨークのスローン-ケッタリング記念癌センターであった。

1940 から 1950 年代中頃のスローン-ケッタリング記念財団は、製薬会社のための最大の医薬品試験センターであった。

コーネリアス P.ローズ(その人はロックフェラー研究所で1930年代を働いて過ごした)は、1939年にスローン・ケッタリング記念財団の責任者になった。

彼は、1959年に耳が遠くなるまでその位置にいた。

ローズは、1943年から1945年まで太平洋戦争の化学戦術部門の責任者であった、そして、その後、国の癌化学療法での第一人者として、指導的立場についていた。

ヴァージニア・リヴィングストン・ホイラー博士によると、「ローズ博士は、全ての国のガンの治療方針を決定し命じた。

「1950年、Irene ディラー博士のガン微生物の発見をニューヨーク科学アカデミーで発表することを阻止したのはローズ博士であった。

彼女が1953年ローマで同じ発見を発表したあと、Casper博士のニュージャージー研究所の資金がキャンセルされるよう取り決めたのも、このローズ博士であった。

そして、誰であるかは未確認ではあるが、強力なニューヨークのガンの権威者達によって扇動された国税局の研究所への調査は、彼女の惨めさを倍加させた。こうして研究所は、終了した。

スローン・ケッタリング記念財団は、米国癌学会と密接に連携していた。

米国癌学会は、ジョン・D・ロックフェラー、Jrと彼の仕事仲間によって1913年に設立された。

戦争の後、再編成された米国癌学会の権力は、製薬会社の経営陣、広告業界、スローン・ケッタリング記念財団理事と他の保守的な治療の支持者によって維持されていた。

米国癌学会の公的な発言は、高額の研究費を生み出すのでガン学界には、非常な影響力がある。

スローン・ケッタリング記念癌センターの前の公共問題公式アシスタントディレクターのラルフ・W・モスは明言した。

「協会は、現在、その権力の拡大方向を支持する人々に何千万ドルも配布し、反対する人々には、逆に資金を不足させる多くの強力なコネクションがある」

米国癌学会の自由にできた全ての富が多く年月使われ、その目的は、ガンの根絶であったはずだが、1934年に治療を始めたガン微生物研究のパイオニアと医者は、その後も密かに治療を続けてはいたが、科学的に孤立させられ、ガン微生物研究の科学者と医者は目立たないよう社会的に抹殺された。

これは不運であったとか、無能であったとか、または、何かそういったたぐいのことなのだろうか？

この、ガンの研究分野に重大な権力をもつ関係者は、医者、プライベートな研究機関、製薬会社、米国癌学会、更には国立癌研究所、研究団体とFDA(食品・医薬品局)を通して働くアメリカ政府の役人といった者達である。(恐れられていたFDAは研究者を急襲し、法的いやがらせと費用のかかる試験を強制するといった処置によってこの権力の部外者を守勢に立たせた)

これらの団体と特に政治的な統括者は、専門的職業意識と、専門知識に基づく公共の福祉への献身を高らかに宣言する。

結果は、こうした専門的職業意識の目的とは非常に異なる話となる。

ラルフ・モスは、本「ガン症候群」からスローン-ケッタリング記念財団化学治療医の故デイビッド・カルノフスキーの言った言葉を引用して、ガンの権威者の致命的な弱点をあげている。:

「治療の型式を調査し、治療の優劣を決める際、問題はその支持者の評判ではない、彼の理論の説得力と卓越性と、その患者からの証拠、または治療についての公的な議論の内容である、しかも、治療が簡単に行えるかという点だ」

もし現在も、リバー、フィッシュバイン、ローズ、そして官僚、製薬スポークスマンといった懐疑的な研究姿勢の科学者だけが大勢を占めていたとしても、慈善家と他の医師免許を持ったプロが、このカルノフスキーの考え方の科学的な正しさを道義的に誇りをもって主張すべきだと思ったら、ガンに対する治療法は、何十年も抑圧されてこなかったかもしれない。そして、今日、すばやい認可テストと実現のチャンスが来ていたのかもしれない。デイビッド M. ロックは同じように、Katnofsky カルノフスキーの本「ウイルス」から引用した:

「シカゴ大学の偉大なガン研究者でノーベル賞受賞者(チャールズ B. ハギンズ)の言葉は、以下の通りである。

「がんは治せる病気である。」

## 第4章

### ガンの治療法を発見した男

1913年に、機械への愛着と科学への好奇心をもつ男性は、ニューヨークから、サンディエゴに到着した。

彼はネブラスカの Elkhorn で生まれた、そして 25 歳に幸せな結婚をした

彼は、新しい人生のスタートにつき、未来に続く医学の道を志した。

彼の名前はロイヤル・レイモンド・ライフであった。そして、親友は彼をロイと呼んだ。

親友は彼の才能に畏敬の念を覚え、彼の優しさと謙遜がとても好きであった。

ロイヤル R. ライフは、細菌学、顕微鏡と電子工学に魅了された

次の 7 年間は、第一次世界大戦の間で、アメリカ政府のため、外国の研究所の調査の目的でヨーロッパに滞在していた海軍でのミステリアスな時期が含まれる。

彼は考え、いろいろな分野で実験をし、装置を造るのに必要な機械技術をマスターした。

これらは、1920 年代の世界がこれまで想像したことのないようなものであった。

彼の人生で最高のアイディアが浮かんだときは 1920 年代であった、

ロイヤル・ライフは、それを完成させようとした。

ジャーナリスト・ニューアル・ジョーンズは、1938 年 5 月 6 日の夕方サンディエゴのイブニングニュースに、歴史的な出来事を解説した：

「サンディエゴに住むこの人物には本当に豊かな才能がある。様々な重要なことを広く研究し、実験し、信じられないほど多数の問題について、発見し発明している。」

これらの探求分野は、弾道学からレース用の自動車の製作、光学部品といったことにおよび、これらに関して、多くの深遠な科学を研究してきた。

そして、1920 年に、彼は病気を電氣的に治療する方法が可能であるか研究していった。

「その時、病気の有機体の化学的構成要素に個性的な違いがあることに気がつき、電氣的特性を観察した。(有機体の電氣的極性を観察した)

「ランダムな推測を繰り返す中で、彼の心に突然驚くべき、考えがうまれた。

『これらの有機体に異なる電氣周波数を放射するならば、何が起こるだろうか？』、彼は疑問に思った。」それで、その実験をするために必要な器具を集め始めた：

顕微鏡、電子器材、蛍光管、細菌学用装置、モルモットのためのおり、カメラと彼自身のデザインで造った機械といったものであった。

2 人のサンディエゴの製造業者-ティムケン・ローラー・ベアリングカンパニー・アンドブリッジのオーナーのティムケンと、ブリッジズ・キャリーズ・カンパニーの所有者ブリッジズから、ライフ研究所の設立資金が提供され、融資が得られた。

1920年代後期までには、彼の仕事の第一段階は、完了した。

既存の原則を破った最初の顕微鏡が造られ、病原体となる微生物を電子的に破壊できるよう造られた特別な装置が、生まれた。

彼はそれに続く年に、この初期モデルを向上させ、完成させた。

全くユニークな方法で微生物の原因となる病気を確認し、これらの病原体となる微生物の正確な M.O.R、つまり致命的な振動率を割り出し分類した。

(「病原体となる微生物を爆破する」正確な周波数である)

それから、Rosenow とケンダルのような細菌学者を指導し医者と協同してガンと他の病気の治療にあたった。

あらゆるステップは、独創的なもので、時間がかかり困難に充ち、論争的となり、反対は、強力であった。

当時の権威ある人たちは、彼と協力した多くの人々を弾圧したが、結局、ライフ以前には無かった顕微鏡、電子周波数装置、そして、痛くない、薬のいらぬ新しい治療方法を後の時代の人々が確立することを可能にした。

このサンディエゴの天才に会って 45 年後の 1958 年に、思い出を語ってくれたライフの同僚が一人いる、

「彼は長年の分析と解明から最終的に 1 つのことを理解した

つまり、これらの濾過可能な形の微生物の精製によって、2 週間でモルモットにガンを生み出すことが出来ることを理解した。

彼は、ネズミ、モルモットとウサギでやってみたが、目標物をモルモットと白ネズミでついでに見つけ出した。

彼のペットは全くひどい状態になっていた。

彼は、かつて誰も見たことのないような最大限の注意を払ってその手術を行った。

医者は、誰も彼に近づくことはできなかった。

大きな強力な拡大鏡を使わなければならなかった。

これまで見た中で最も素晴らしい手術を彼は、行った。

腸からあらゆる触手を完全に根絶し、縫いあげた。良くなると、完全にその事がわからないうようになった。

同じことを 1 度でなく数百回も、行った。

『それは何度も何度もおこなわれた。

私の願いはこのことを発表することであった。

私は、彼がしたことが偉業だと思ったので、この発展させた技術の詳細なすべての情報を発表することは私の願いでした。

「彼は、これらの培養組織をスライドで保存した。

彼はこれによって、ろ過性病原体を見ることを可能にし、完全に運動能力があつて、積極的にまわりを泳ぐのを確認することができた。



その時、彼は『これを見てください』と言って周波数ランプに点灯した。

病原体を破壊する周波数に設定して、ものすごいパワーの流れを部屋に解放した。

そのパワーで小さな病原菌は即死した。

「彼は、自分で顕微鏡を造り、自分で顕微鏡の微妙なミクロの動きを可能にする操作装置を造った。そして、他にもミクロ用の解剖器具など多くの装置を造った。

私は、いつもロイライフが不動の姿勢でその魔法の席に座りつづけるのを見ていた。

周波数を変化させ、スライドに写されたウイルスの死滅するとき時が、いつ来るかを観察し続けていた。24時間は、彼にとって何でもなかった。

彼は、しばしば48時間ぶっ続けで行っていた。

動くことなくそこに座っていた。

少しの水以外は、何も口に入れなかった。神経は、まるで冷たい、鋼のようだった。

彼は、決して動かず、彼の手は、決してふるえなかった。

「もちろん、彼は前もって訓練を受け、その後も、何度も自身を鍛え上げるために、非常に慎重に訓練していた。

それは、人間の自己コントロール力と持久力で得られた最大の素晴らしい映像の1つと云うべきものであった。

「私は、癌ウイルス見、ポリオウイルスを見、TBウイルスを見た。

多くの異なる性質のウイルス、特に致死的な3つの病気、TBウイルス、ポリオとガンのウイルスを一般の人々と、医者にも見せ、確認させた男が、ここにいた。

この時、これを見た医師の何人かは、その後、再三再四誇るべき発見をしていった。

彼らは、ガンウイルスの1つを分離抽出させ、ポリオウイルスの一つを分離抽出した。

ライフがやったことが、世界最大の途方もない出来事の1つだという理由は、35年前に、ロイ・ライフは、これを映像として初めて見せ、証明したということである。

アメリカ医学協会の強引で、正義を無視した、完全に狂った行動にもかかわらず、これらの機械はガンの治療が可能であることを実証した。

権威ある者達は、ロイライフの書いた本の何ページかを見ることができ、世界で悪性の病気と疾患の治療ために多くの優れた行為ができたはずだった。

すでに亡くなった数100万の人々がライフ装置の治療で、病気から回復することも出来たはずだった。

「私は、ロイライフが好きでした。

私は、私の理想としてロイを常に記憶しております

彼には、学んだことを記憶しておくかなりの能力と、かなりの知識量がありました。

彼は、確かに私の理想でした。

彼は多くの領域の科学的な知識を持っていたので、100人の医者をまとめても、年とったテディ・ルーズベルトの以外に、彼より利口な男性を知らない。

彼には、それほど多くの知恵があった。

必要ならば数 100 万ドルを得ることが出来、何百万ドルも儲けることが出来たと思う。  
そして、それは、本来人類のためになるものであり、さまざまな騒ぎに関係なく、なにしろ、ライフ光線マシンと呼ぶ実績あるものを造った。

「私の推定では、ロイは私がかって会ったとても穏やかな、上品な、控え目な、道徳的な紳士のうちの 1 人であった。

私が、研究室に通ったおよそ 30 年間の間、1 度として不愉快なことばを聞いたことはなかった。

「多くの医者が、ライフの研究室のドアを叩いて通った研究室は、なんとも美しいものでした。中は美しく配置され器材は、正確におかれていた。;

彼の研究は、素晴らしいもので、その記念となる場所でした、そして、その雰囲気はどこにも再現することは出来ません。」

## 第 5 章

1920 年代

結核の原因となる微生物を破壊可能な電子特性の研究は 1920 年に、始められた。

それは最初にオリジナルな電磁波周波数装置が造られた年であった。

微生物を殺す周波数は知られていなかったのもので、ライフは試行錯誤で進めた。

ライフと彼の仲間はテストを繰り返した。

ついに、彼は成功を収めた、しかし、成功はより多くの問題を生み出した。

微生物は殺されたが、いくつかのケースでは、モルモットは毒素型の食中毒で死んだ。

答えを見つけ出すのに 3 年間かかった。

彼は、死んだバクテリアから出たウイルスが原因であると推測した。

彼は、豚を傷つけることなく、そのウイルスを殺す周波数を正確に確定し、純粋にウイルスだけを殺す方法を考案しなければならなかった。

ライフは最初の顕微鏡を 1917 年に造り始めて、1920 年に完成した。

1920 年から 1925 年まで、約 20,000 の病理学的組織が切断されて、着色された。

しかし、顕微鏡を最高のパワーにしても、未知のバクテリアまたは外来進入物質を示すことに失敗した。

ライフはウイルスを見る方法を向上させるための研究を続けた。

ライフは、Voghn とその後のロバート・コッホの 19 世紀の仕事を知っていた。

コッホは、ワクチンと、抗毒素でロッドの形の結核バクテリアを破壊できたが、残された実験動物は死んでしまった。

ライフは周波数装置で結核菌を破壊したが、結核バクテリアを殺すことでウイルスを体の中に放散させたと推理した。

彼がウイルスを見ることが出来、その周波数を確定出来ない限り、彼の方法では、結核を完治させることは出来ない。

だが、彼の顕微鏡のある研究室で結核の細菌と、ウイルス性の型のものを見る事が出来るならば、2 つ別々の周波数を確定することが出来、それら両方を同時に殺すことが出来る。

微細なウイルスはアニリン染料や既存の酸で着色することは不可能だとライフは信じた。

彼は、別の方法を見つけ出さねばならないと考えた。

彼は、途中でしばしば大きな科学的発見につながる直観的なジャンプをした。

その時彼は、ウイルスを光で染色する方法についての最初のアイデアを得た。

彼は、光の周波数が観察中の粒子または微生物の化学構成要素に正確に照準が合うことを可能にする顕微鏡を造り始めた。

後で、ライフはどのようにこの成功につながるジャンプができたか、リポーターに説明した。

1929年11月3日のサンディエゴ・ユニオンは1面の記事で、ライフを伝えた。

「1人は何をすべきか知っている細菌学者で、もう一人は試作する機械技師ならば、うまくいくでしょう、しかし、彼らはゆっくり、そして、不完全に試行錯誤を続けるでしょう。しかし、2人が同じ1人の人ならば、彼は両方の角度から作成方法を考えていけます；その時、繊細さ、正確さ、機械の技術、適当な記録を持ち続けたいという意欲、発明の才と失敗から学ぶ我慢強さが付け加わるならば、たとえ何があっても、問題の解決と必要な装置の完成の方へと向かっていけます。」こうして、ライフの2番目の顕微鏡は1929年に完成した。

1931年12月27日のロサンゼルスタイムズ誌の記事は、この顕微鏡の優れた照明方法について、市民に報告した：

「天文学者が望遠鏡で星から来る光りで、正確に星を研究したように、細菌もこのように、その対象から来る光りで研究されるでしょう。研究される細菌は、生きています、傷つき殺された死骸を観察しているのではないのです。」

その時、ライフはまた、ほとんど同じ時期に、ガンの原因となる微生物を破壊する方法を研究していた。

彼の癌研究は1922年に開始した。

彼が単純に「BX ウイルス」という名前を後につけたガンの原因となる微生物を分離するのに、1932年までかかった。

1920年代はライフが純粋に研究に、とり組んでいた年であった。

彼のドアに尋ねてくる有名な微生物学者はなく、彼の周波数装置を患者に使用しようとする医者もなく、顕微鏡の専門家から彼の発明品について学びたいとする要請もなく、医学的委員会が、研究所の結果と臨床結果を合せて確認しようとすることもなかった。

研究室で彼の研究を邪魔する有名なガンの専門家もなく、彼の発見を認可手続きの過程に入れようとするガンの研究財団もなかった。

しかし、1929年に顕微鏡の存在が報告されたすぐ後から、科学界と隔離されていた生活は全て終わった。

ライフは、実験の実演と、手紙と会議のために時間を作らなければならなかった。

彼は、より多くの人々に説明しなければならず、更に、彼だけがその方法を知っており、彼だけがすることができた疲れる研究時間を確保しなければならなかった。

他の者が手助けしたが、結局邪魔になった。

彼の研究を盗もうとする、商売人と医者がいた。

そしてライフの発見は、名声と権威ある科学者への、挑戦となるので、反対された。

そして、モリス・フィッシュバインによる強力な邪魔が入った。

そして全米医学協会は「買収する」ことが出来なかったため、奇跡的な治療を作り出した

男を社会的に抹殺しようとした。

振り返ってみれば 1920 年代はライフの人生で最も静かな、雌伏の年であったが、「純粋に科学的」な意味では彼の人生の黄金期であった。

1929 年 11 月 3 日に、サンディエゴ・ユニオン紙は 1 面に

「サンディエゴに住むこの人は微生物の生命の神秘を明かにした」という題の記事を書いた。

記事は、ライフの驚くべき新しい顕微鏡が達成したことを説明した。

この記事はライフの「光による染色」方法が、完成に近づいていることを発表した。

記事は次のように説明した：

「彼は、組織の特徴を取り出すため、強い酸で染色すると、スライド化のために必要な複雑な処理と同様に、観察対象が無効なものに変化するとした。

「科学者は顕微鏡の下で細菌をピンで確定したと思っているが、化学的染色それ自体がまさしくその細菌を滅ぼし変化させてしまうことに気付いていない。

「それで、彼は化学薬品を使わない新しい方法を発展させた。

今までは、顕微鏡で観察する前に塩水につけた、組織の部分へ、5 日間の苛酷な準備が必要だったが、3 分以内に、染色用の薬が投与されない、あるがままの病気にかかった観察対象のスライスが用意できるようになった。

今までの方法では、おそらく顕微鏡の、観察対象としては、すでに役に立たなくなっていた。

彼は一旦これが完成したならば、このプロセスの生み出す可能性は、果てしないものだと思っていた。この過程を、ただ乗り越えるだけで、多くの人間的な苦しみが終結するかもしれなかった。これを探求している間も、医療研究者はすべて、まさに発見し求めている対象を破壊していた。

騒々しい 20 年代は終わっていった。

彼の最初の新聞記事の 2 週間前に、株式市場は大暴落した

ここからアメリカの 10 年続く不況が、前にひかえていた。

このライフの素晴らしい発見と、発明と医療の奇跡は、専門家の科学的な懐疑論と戦う必要があっただけでなく、国家的な経済危機の中で、これからの医療産業の方向を決定する力を持ち、なかなか理解されない挑戦と困難な研究課題にも融資可能な、強力な医学界とも戦わなければならなかった。

それでも、彼の第一の目標は、完了した。

ガン微生物は分離され破壊された。

病状は末期がんの患者を、治療し、彼らは治った。

ライフは目標を完成させた。

彼の研究が認められる数十年前のことであった。

彼が達成した「純粋科学」は、致死的な BX ガン微生物で苦しんでいる人々の痛みを、その

効果で「爆破する」ことを意味していた。

## 第 6 章

### 1930 年代初期

1931 年に 2 人の男が、ロイヤル R ライフの人生で一番強力なプロフェッショナルな支援を提供した。

アーサー・L・ ケンドール博士は、イリノイのサウスイースト大学医学部の医学研究部長であった。

ミルバンク・ジョンソン博士は、カルフォルニアのパサデナ病院とロサンゼルス医学界に影響力と権力をもつ責任者であった。

ライフと、ケンダルとジョンソンは、一緒に、ゆっくり慎重に、彼らの時代の科学的医学理論に対して攻撃を開始した。

おそらくサンディエゴ・ユニオンの 1929 年 11 月 3 日のニュース記事でケンダル博士は、ライフの奇跡の顕微鏡を知った。

彼は、そのような顕微鏡が本当に存在するかどうか、ロサンゼルス友人ジョンソン博士に質問した。

ジョンソン博士とアルヴィン G. Foord 博士（パサデナ病院の病理学者（その後、アメリカン病理学協会の会長））は、他の 2 人の先生とともにサンディエゴに旅行した。

このように Foord が最初からこの件にかかわっていた事実は、後になって、彼の大変な科学的な努力と協力を、やったことはないと言ったために、重要な証拠となる。

1950 年代にカリフォルニア州環境衛生とアメリカ医師協会はライフのガンの治療をつぶすように動く。

このガンの治療法はこうして禁止されたので、その時以来何百万もの多くの人々が死に、装置を使って成功した医者は排除された。そして、文書と個人の証言が示すように、この作られた悪い評判は文字通り「まっかな嘘」であった。

しかし、1931 年にジョンソンと Foord とライフが最初に会ったとき、ライフの素晴らしい顕微鏡によって医学の将来は際限のない進歩だけがあるように見えた。この時は 4 人の医者は、まだ弾圧されていなかった。

ロサンゼルスに戻ったジョンソンは、シカゴのケンダルに、ライフについての報告を打電した。

ケンダルは、電報で返事をおくった、「土曜日の夜の、カリフォルニアの星に、期待します」ケンダル博士は、バクテリアの「濾過性病原毒」部分を分離させ、複写の継続を可能にするタンパク質培養基を発明した。（その発明者の名前から後に「K 培養基——ケンダル培養基」と呼ばれる）

この主張は、ウイルスが再生のために生きた組織を必要とすると、頑固に主張するロック